

令和5年度玉名女子高等学校 学校評価

学校教育目標 基本方針

綱領「質実剛健」「良妻賢母」「温雅貞淑」をふまえた教育実践を行う。

普通科・ビジネス科・食物科・看護科・看護専攻科の専門教育の特徴を生かした多様な学びの中で、生徒の特性をふまえその資質や能力を最大限に伸ばす。

令和5年度 努力目標

1. 安心・安全に過ごせる学校づくり
2. 授業改善、基礎学力の充実及び専門性向上のための指導
3. 基本的な生活習慣の確立を図るための取組（見えない学力の充実）
4. 文武両道
5. 人権教育の推進
6. 生徒と向き合う時間の確保

重点努力目標に対する自己評価総括

	評価項目		評価	総括
重点目標 1	1	安心・安全に過ごせる学校づくり	B	「健康と安全」については教師の評価は上がっているが、生徒の評価は漸減している。コロナ禍による制限が緩和されたことによる不安もあったと考えられる。必要な対策を行いながら、生徒の不安に配慮しつつコロナ以前の教育活動を行う工夫をしていく必要がある。「いじめのない環境づくり」については生徒・保護者の肯定的評価は6割を切っているにもかかわらず、教師の評価は95%と昨年度よりさらに両者の評価が乖離した。生徒の否定的な評価は減少しているものの、2割の生徒が「わからない」と答えている。教師はいじめの認知に努めその都度解決しているつもりであるが、生徒・保護者には伝わっていない。教師はその現状を認識し、原因を考え対応していく必要がある。いじめに対する毅然とした指導や解決に向かう姿勢を真摯に示すことで改善できる。
	2	相談・支援体制の充実	B	教師の肯定的評価は8割以上で推移しており、教師の8割は家庭との連携もとれていると評価している。生徒・保護者の評価は少し上がっているものの6割程度である。これも生徒・保護者と教師の認識の差が大きい項目である。また、わからないと答えた生徒が2割いる。特に支援が必要な生徒に対しては学年、保健部、外部機関等が連携し、組織的に支援する形はできているが、まずはすべての生徒と日常的なコミュニケーションがとれているか点検する必要がある。
重点目標 2	3	教師の指導力向上	B	7割の保護者が「学校は教育目標をわかりやすく伝えている」と評価している。コロナ禍による制限が緩和されたので、さらに本校の教育活動を保護者をはじめ、学校外にも可視化していかねばならない。「わかりやすい授業になるように工夫している」と評価した生徒は微減。学年別にみると2年生が最も評価が高い。昨年度は1年生が最も高く、タブレットや大型モニター導入が一因と考えていたが、今年度は1年生が最も低い。他の要因を探り改善していく必要がある。今年度はWi-Fiも整備されたが、授業に変化がなければ評価につながらない。研修や工夫を重ね授業改善につなげていく。
	4	基礎学力充実のための取組み	B	教師の肯定的評価は上昇し、8割の教師が基礎学力が十分につくように努めていると答えている。一方でマナトレの効果についての教師の肯定的評価は3割を切り、「分からない」が2割を占めている。生徒の基礎学力についての肯定的評価は漸減し、7割を切っている。これらは昨年度とほぼ変わらない結果である。特にマナトレについては、毎年同様の結果で、そのたびに教材等検討しているが、変化がない。データを用いて効果を把握する方法を検討するとともに、教師の評価が上昇したにもかかわらず生徒の評価が下がっている要因を分析し対策を考える。
	5	専門性習得のための取組み	A	教師、生徒、保護者ともに肯定的評価が8割を超えている。コロナ禍の制限が緩和され、授業参観や学校行事等を保護者がみる機会が増えたためか、保護者の評価は特に上昇した。しかし、生徒の評価は徐々に低下しているため、教育課程の点検、ICTの活用など継続して研究に努めていく。検定については教師、生徒、保護者とも肯定的評価が7割を超えている。特に生徒の評価は漸増し、77.7%が「積極的に指導が行われていると思う」と答えている。取り組みの結果は検定の結果で評価することができるので、生徒のモチベーション維持、生徒・保護者の満足度につながるものである。現在の取り組みを継続するとともに、さらなる向上に努めていく。
重点目標 3	6	基本的な生活習慣の確立	B	頭髪・服装、気持ちのよい挨拶、掃除についての生徒の肯定的評価はいずれも7割を切っている。「基本的な生活習慣が身につくような丁寧な指導」については、教師の肯定的評価は78%、2割の教師が「丁寧な指導をしていると思わない」と答えている。生徒・保護者の肯定的評価はいずれも67%である。生徒の否定的な評価は漸減しているものの、「わからない」の割合が増えている。特に前述の3項目は本校が大切に指導してきたことであり、外部から評価していただけてきたことである。ほかの生活習慣、学習面にもつながる基本的なことであるので、すべての教員が日常的に機会を捉え、根気強く十分に伝える指導を行うようにしなければならない。

重点目標 4	7	進路実現をめざした指導	B	進路指導の取り組みについては、生徒・保護者ともに7割程度の評価は得ているが、「進路についての面談」については2割程度の保護者が否定的な評価をしている。現在の取り組みを継続するとともに保護者への情報提供、保護者との連携について検討・改善していく。進路指導室の利用については教師・生徒ともに評価が低く、「わからない」と答えた生徒の割合が最も高い項目である。教師が進路指導室を活用する機会を作り、活用の仕方を指導することができていない。
	8	文武両道をめざす 学習と部活動の両立	B	部活動の推進と技術向上の取り組みについては、教師・保護者の評価に比べ、生徒の肯定的評価が低く、7割を切っている。学習と部活動の両立の配慮については、教師・生徒ともに肯定的評価は5割前後である。また、教師の4割、生徒の2割が否定的な評価をしている。活動時間・内容を見直す必要があるのか。学校行事に対しての生徒の肯定的評価は6割を切っている。コロナ禍の制限の中、行事の運営や方法等、経験が継承されていない部分があり、コロナ以前よりさらに教師の適切な指導が必要である。
重点目標 5	9	人権教育の推進と心の涵養	C	ハラスメントに配慮した教育について、教師の肯定的評価は昨年度より12ポイント上がり89%であるのに対して生徒の評価は低下し、生徒・保護者の肯定的な評価はともに6割程度である。教師と生徒は強者と弱者という関係にもなりかねない。職員の人権感覚を磨くとともに、教師の態度、言葉遣い、声の大きさなど、互いの言動を点検するなど冷静で丁寧な指導をおこなっていく。読書、ボランティア活動の推進については評価が低く、改善することができていなかった。国際交流については、韓国姉妹校との交流再開、次年度の韓国修学旅行等、生徒・保護者が期待しているためか、評価が大きく上昇した。コロナ以前は最も評価が高い項目であり、本校の強みである。今後も継続していけるよう学校全体で取り組んでいく。
重点目標 6	10	働き方改革の推進	C	肯定的評価は昨年度から3割を切っている。各部署での積極的な見直しが行われていない状況が現れている。大きく変化させることはできなくても、できることから変えていくという意識を各部署の長はもちろん全職員が持ち、具体的に提案し実践につなげていく必要がある。あわせて11月より勤務時間外の実労働時間の把握をはじめたが、職員一人一人が時間を意識して計画的に仕事が進められるような意識づけや、そのための仕組みを作っていく必要がある。
その他	11	魅力ある学校づくりと生徒募集	B	保護者の満足度は8割程度と高評価である。しかし、学校が明るく楽しいと感じている生徒は7割以上いるが、「この学校に入学して良かった」と答えた生徒は2年前から10ポイント低下し6割程度である。「生徒は本校に入学して満足していると感じる」について教師の評価は2年前から19ポイント減少し62%、「わからない」27%である。生徒の実態を把握しながら、生徒の満足度をあげるための努力をすることができているか見直していく必要がある。保護者と情報交換、連携するような機会を創出し、三者の満足度を上げたい。「女子高らしさ」についての肯定的評価は、生徒・教師ともに減少し6割前後である。「女子校」という表現に疑問を表す意見もあった。「建学の精神」・女子教育の重要性を職員全員で共有する必要がある。「玉名女子高等学校らしさ」、生徒の理想像を確立していく。